

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称：特定非営利法人 環境・福祉事業評価センター	所在地： 長野県長野市南高田2-5-16
評価実施期間： 令和1年6月3日から令和2年2月21日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） 050301 B18055 060963	

2 福祉サービス事業者情報（令和1年10月現在）

事業所名： 山ノ内町すがかわ保育園	種別：保育所	
代表者氏名：町長 竹節 義孝 (管理者氏名) 町長 竹節 義孝	定員（利用人数）：45（17）名	
設置主体：山ノ内町 経営主体：山ノ内町	開設（指定）年月日： 昭和62年4月1日	
所在地：〒381-0405 下高井郡山ノ内町大字夜間瀬 8597		
電話番号：0269-33-6931	FAX番号：0269-33-6931	
ホームページアドレス： http://www.town.yamanouchi.nagano.jp		
職員数	常勤職員：5名 非常勤職員 2名	
専門職員	園長 1名 保育士 2名	
	保育主任 1名	
	給食調理員 1名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(屋外遊具等)
	乳児室 1室	砂場
	ほふく室 1室	滑り台
	保育室 3室	ブランコ
	遊戯室 1室	太鼓橋
	調理室 1室	雲梯
	事務室 1室	
便所 2室		

3 理念・基本方針

山ノ内町では「子どもや子育てにやさしいまち 山ノ内 みらいへつなぐ、ふるさとのまちづくり」を基本理念に①子育て家庭の支援②親子の健康確保と増進③教育環境の整備④子育てにやさしい生活環境の整備⑤要保護児童・家庭への支援を基本目標としている。

【山ノ内町の保育目標】

子どもたちが「のびのび」、「すくすく」、「たくましく」育つことは、子を持つ親にとって最大の願いであり、保育園をはじめ地域全体の願いでもあります。

子どもたちの健やかな心身の成長を願って、次の保育目標をたて、年齢、個人差を考慮しながら保育を進めます。

- 十分に養護のゆきとどいた環境のもとに、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。
- 健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康・体力の基礎を培うこと。
- 人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感そして人権を大切にすることを育てると共に、自主、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。
- 自然や社会の事象について興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の基礎を培うこと。
- 生活の中で、言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり、聞いたりする態度や豊かな言葉を養うこと。
- 様々な体験を通して、豊かな感性を育て、創造力の芽生えを培うこと。

【山ノ内町人権・同和教育目標】

- 健康で明るく、だれとでも仲良く遊ぶことができる豊かな心を育てる。
- 困っている友達に、優しさや思いやりの気持ちを持って接し、みんなで助け合う心の大切さを培う。
- 仲間はずしや意地悪に負けず、差別をはねのけることができる態度を養う。

【すがかわ保育園の保育目標】

すがかわ保育園では、子ども達の健やかな心身の成長を願い次の目標に向かって、年齢・個人差等を考慮しながら保育を進めます。

- 1 健康で明るい子ども
 - ・正しい生活習慣を身につける。
 - ・好き嫌いなく、楽しく喜んで食べる。
 - ・思い切り身体を動かして遊ぶ。
 - ・年齢に応じた体力づくりをする。
- 2 創造性豊かな子ども
 - ・友達と仲良く、工夫して遊ぶ。
 - ・郷土の豊かな自然に親しみ、様々な体験・事象に関心をもち意欲的に取り組み遊びこめる。
 - ・感性を素直に表現できるようになる。
- 3 優しく思いやりのある子ども
 - ・友達との関わりの中で、友達に迷惑をかけたり、嫌がることをしない。
 - ・命の大切さを知る。
 - ・異年齢児との友達と交流する。
- 4 言葉を正しく使える子ども
 - ・どこでも、誰にも「おはよう・こんにちは・さようなら・ありがとう」が言える。
- 5 我慢できる子ども

【人権・同和教育目標】

「同和教育」に基本は、人権感覚の育成で、誰もが希望を持って楽しく生きていく権利があり、この権利を他から阻害されないよう保障があってこそ、人権がなりたつと言われています。

「幼い子たち」ですが生活体験を通して「人権感覚を身につけてほしい」ことを願い、これを基に次の目標を立て、自分のしたことがお友達の迷惑になったり、時には

人の心の傷をつけているなどに、気づく心が育って欲しいと願っております。

- だれとも仲良く遊べる子ども
- 相手の気持ちにきづき優しくできる子ども
- 人の話が聞けたり、自分の思っていることを言える子ども
- 良い悪いがわかる子ども
- 自分のことは自分でできる子ども
- 動植物の飼育や栽培を通して命の大切さがわかる子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

1 恵まれた自然環境と縦割り保育

山ノ内町の北部に位置し、高社山の麓、農業と北志賀高原の観光を中心とした地域です。この地区は竜王、乗廻、小丸山、中須賀川、苗間、下須賀川、八丁原、表落合、裏落合の9地区で構成され、すがかわ地区とされている。この地区の人口は1,045人452世帯である。すがかわ地区の人口は減少傾向にあり、隣の北小学校は平成28年度末（平成29年3月）閉校し平成29年度から北小学校区の子どもは西小学校へ通っている。園児は16名であり、クラスは2歳児・1歳児がひよこ組、3歳児がうさぎ組、5歳児・4歳児がきりん組の3クラスとなっている。園長、主任保育士、2名の保育士、2名の延長保育士、調理員の7名で運営されている。

全体で17名の園児が通う小規模な保育園であるが、小規模の強みを生かし、縦割り保育を活かし給食、午睡など園全体が一つになって取り組んでいる。給食はアルミの弁当箱と白湯方式である。人権同和教育の方針に沿った人権に配慮した保育が行われている。周りは畑や田、雑木林が点在しており、お散歩コースも多く自然に恵まれた環境で保育が行われている。

2 充実した通常保育

近年注目されている「運動あそび」きれいな子どもを育てる「セカンドステップ」を伝統的に継続して積極的に取り組んでいる。「運動あそび」はコアを発育発達に合わせて進化していくことで身体の機能を向上させ、更にこころ・からだ・あたまのすべてを使って楽しく遊ぼうをコンセプトに「運動あそびカリキュラム」として①身体の軸となる体幹を正しく学習し、“いい姿勢”を身に着ける。②良い姿勢を獲得することで、身体機能を向上させる。③身体機能が向上することで「体を動かすことが楽しい」→「できるようになった!」、「また、やりたい!」につなげる運動・あそびの習慣に取り組んでいる。3歳児から5歳児までの体系的カリキュラムが目標と具体的内容が体系的にできている。

「セカンドステップ」は米国で作成されたプログラムで①ファーストステップ：暴力（虐待）やいじめを受けた子をケアするプログラム②セカンドステップ：暴力やいじめをさせないためのプログラムとして日本でも効果を上げている。子どもの衝動的・攻撃的な行動をやわらげて社会的生活を円滑に送れることを目的に全ての子どもが健全に育つことを目指しプログラムとして長年取り組んでいる。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回初受審
---------------	-------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

- 1 子どもの人権を尊重した保育

山ノ内町では、町としての「山ノ内町保育目標」に加え「山ノ内町人権・同和教育目標」を定めている。すがかわ保育園でも町の目標に準じ「人権・同和教育目標」を定め保育に活かしている。この取り組みは山ノ内町全体の保育園で共有され、山ノ内町の全ての保育園が参加する「山ノ内町保育研究会」で取り組んでいる。部会の一つに「人権・同和教育部会」があり継続的に保育に活かしている。人権の尊重は「保育園だより」に「人権・同和教育目標」や「児童憲章」を記載し保護者に周知している。また園として「すがかわ保育園人権・同和教育年間目標を各年齢別に作成し、年間指導計画等で具体的に行われている。毎年新入園児の家庭訪問を実施しており、家庭環境を把握し児童の人権を尊重した保育を積極的に取り組んでいる。

2 作物作り等多様な食育の取り組み

山ノ内町では山ノ内町食生活改善推進協議会と連携し、伝統郷土料理を伝承するとともに、園児のそれぞれの成長段階や理解に応じ、さまざまな学習の機会を適切に捉えて「食育」に関する知識と選択するための保育に取り組んでいる。具体的には給食については食育計画に基づき、地産地消のエノキ、シメジ、りんご、ブドウ（巨峰）、山ノ内産のコシヒカリ（雪白舞）を食材に使用している。また長野県北信保健事務所の「ひくシオたすベジ 北信州」キャンペーンにより「うす味習慣」になるよう取り組んでいる。これらの活動は町の食育計画推進委員会によって進められている。すがかわ保育園では保護者や近くの農家からりんごや野菜が届けられ地域の協力や近くの畑を借り野菜作りを通じた体験による食育の活動が良い点として評価できる。

3 充実した「運動あそび」や「セカンドステップ」の通常保育

近年注目されている「運動あそび」きれいな子どもを育てる「セカンドステップ」を伝統的に継続して積極的に取り組んでいる。3歳児から5歳児までの体系的カリキュラムが目標と具体的内容が体系的にできている。遊戯室がありマットやとび箱を使った運動あそびができるようになっている。年間の行事予定には「運動あそび」と「セカンドステップ」が計画されている。「運動あそび」は年6回の3歳児から5歳児のカリキュラムがある。令和元年度の「セカンドステップ」は10回、具体的内容が計画され実施されている。「セカンドステップ」は人権を尊重した保育でもある。

◇特に改善する必要があると思う点

1 設備の更新や玩具の充実

すがかわ保育園は昭和62年に開設され改修されながら設備の更新を図り、冷房について今年整備された。保護者からは、建物も古く冷暖房機器の更新や正面玄関入り口の柵の要望や新しい玩具の要望がある。限られた予算の中ではあるが可能な設備の更新や玩具の購入について計画的な充実を期待したい。保育士は手作りで牛乳パック等を利用し足台等の玩具を制作して保育に役立てている。

2 安心・安全な福祉サービスを提供できるリスクマネジメント体制の充実

安心・安全な福祉サービスでは事故防止、感染症対策、災害等の対応等が個別に実施される仕組みになっている。これらをリスクマネジメントとして統括する責任者の選任・配置や委員会の設置にまでは至っていない。ヒヤリハットの取り組みや消防計画での自主検査記録の確認、園児が散歩で利用する道路危険マップを作成し、危険個所の洗い出しと見直し等多岐にわたるリスクを評価・検討し改善できるリスクマネジメント体制の充実を期待する。

3 マニュアル等の整備と定期的な見直し

山ノ内町保育園管理規則、危機管理マニュアル、衛生管理マニュアル、不審者対応マニュアル等が整備され運営されている。一方倫理綱領、虐待防止マニュアルやプライバシー保護の規程、実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成についてのマニュアル、ボランティアに関するマニュアル等については明示された規程やマニュアル等がなく整備することを期待する。またマニュアルを定期的に見直し、均質な福祉サービスの確保することを期待する。

3

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目（別添1）

内容評価項目（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント（別添4）

（令和2年2月17日記載）

初めて第三者評価を受けさせていただきました。

少人数保育園ではありますが大自然に恵まれ四季を通しての環境はとても良い点と評価していただきました。一方で改善点が明らかになりました。園舎開園から30年以上経過し、遊具や施設面などの時代の変化とニーズに合わせた改善を早急に行う必要性があり、改修、修繕を行っていきたいと考えています。

評価を受けて保育士は改めて保育を見直すきっかけになったり、マニュアルの見直し、保育を客観的に見ていただき改めて考える良い機会になり、山ノ内町の保育運営について考える機会を与えていただきました。

保護者アンケートは今後の参考にし、保護者の気持ちに寄り添った保育運営について職員間で協議し、保育の質の向上に繋げていきたいです。また、家庭と手を取り合い、ともに協力しあって子どもたちを育てていけるよう職員一同研鑽を積んで参ります。